

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271101513
法人名	社会福祉法人 真和会
事業所名	グループホーム おおくさ
所在地	〒859-0414長崎県諫早市多良見町元釜字浮津555番地 (電話) 0957-44-1917

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月19日	評価確定日	平成21年3月9日

## 【情報提供票より】(平成21年 1月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年	2月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤	1 人, 常勤換算	8.8 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費・光熱費100円/日	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 900円			

### (4) 利用者の概要( 1月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三原台病院・屈デンタルクリニック
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームおおくさは、海と山に囲まれた自然豊かな住宅地に建てられている。そのため入居者や家族にはのどかでゆっくり出来て安心だと喜ばれている。近くには大村湾が一望できる大きな公園があり、出向いて景色を楽しまれている。また、近くにはおおくさ駅があり、交通の便も良好である。気候がよければ入居者は海岸を散歩するのを楽しみにされている。職員は介護福祉士が多く、入居者との会話やふれあいが穏やかにゆったりと対応されている。出勤人数も基本的に4人は配置しており、ゆとりをもって介助が出来る。独自の取り組みとして音楽や個々の能力に合わせた学習法を行われ、音楽に合わせて踊られたり、習字をするなど、楽しく日々を過ごされている。地域の方とふれ合うことに力を注がれており、当ホームの1階部分は特に利用しないため、地域の方々へいつでも待ち合わせなどが出来るよう、サロンのような空間を用意するなど、地域の方々との交流に努められている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価で更なる取り組みが期待されることは改善計画シートを用い、向上に努められている。取り組まれた内容として災害対策があり、備蓄の整備(水・保存食・ランタンなど)をされることで、ライフラインの確保につながっている。また自己評価で自身の課題にも取り組まれており、向上心が伺える。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を昨年11月から約1ヶ月以上かけ、項目ごとに担当を振り分けて取り組み、評価に対する意見をまとめた物を全職員で見直すことで取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1度、運営推進会議を開かれている。参加メンバーには地域代表者・入居者家族・行政担当者・理事長・管理者・職員など、地域の方を交えて行われている。会議録には事業報告や要望などが分かり易く記録され、今後につながる会議が行われている。市町村担当者とは運営推進会議以外にも介護保険のことなど、郵送、ファックスでなく足を運んで細かく尋ねることで、様々なことを相談できる関係を結ばれている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	状態に応じて随時入居者の生活状況を家族に伝えられている。自己・外部評価も家族にお送りしたり、毎月当ホームから手書きで入居者の様子を報告するなど、個々に合わせた報告をしている。家族の意見を引き出す工夫としてはエレベーター前の2箇所に意見箱を設置したり、面会時にお茶をお出しして入居者の暮らしを報告すると共に意見を尋ねるなど、笑顔と柔らかい声かけで対応されている。しかし思うように意見が伺えないのが現状である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	法人として自治会に参加することで回覧板を通じて地域の行事を知らせていただいたり、法人のクリスマス会などの行事に中学生や保育園の園児に参加してもらう事で交流を図られている。また春先には地域の農家の方が野菜の作り方を教えに来てくださっている。当ホーム1階を地域の方々待ち合わせ場所として解放されるなど、地域との交流を図られている。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「認知症であっても、一人一人が地域の中にあたりまえに暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていくことができるように支援する」と開設当初から地域密着を念頭に理念を作成されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	廊下や事務所に理念を掲示しており、朝礼時には必ず確認することで取り組まれている。また理念の実現に向けて「笑顔で明るいあいさつ 利用者を良く見つめる 信頼関係を築く」という介護理念を作成されている。また介護理念は毎年変えることで、マンネリ化を防止しながら日々努められている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として自治会に参加することで回覧板を通じて地域の行事を知らせていただいたり、法人のクリスマス会などの行事に中学生や保育園の園児に参加してもらう事で交流を図られている。また春先には地域の農家の方が野菜の作り方を教えに来てくださっている。当ホーム1階を地域の方々に待ち合わせ場所として解放されるなど、地域との交流を図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を昨年11月から約1ヶ月以上かけ、項目ごとに担当を振り分けて取り組み、評価に対する意見をまとめた物を全職員で見直しすることで取り組まれている。外部評価で更なる取り組みが期待されるところは改善計画シートを用い、向上に努められている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議が開かれている。参加メンバーには地域代表者・入居者家族・行政担当者・理事長・管理者・職員など、地域の方を交えて行われている。会議録には事業報告や要望などが分かり易く記録され、今後につながる会議が行われている。		

グループホーム おおくさ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは運営推進会議以外にも介護保険のことなど、郵送、ファックスでなく足を運んで細かく尋ねることで、様々なことを相談できる関係を結ばれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや行事で楽しんでいる姿をたよりで1度発行されている。行事での写真は、アルバムにして行事の際に渡されている。また状態に応じて随時入居者の生活状況を家族に伝えられている。自己・外部評価も家族にお送りしたり、毎月当ホームから手書きで入居者の様子を報告するなど、個々に合わせた報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を引き出す工夫としてはエレベーター前の2箇所に意見箱を設置したり、面会時にお茶をお出しして入居者の暮らしを報告すると共に意見を尋ねるなど、笑顔と柔らかい声かけで対応されている。しかし思うように意見が伺えないのが現状である。		今後はさらに家族会の発足や無記名アンケート(チェック方式)などを利用しながら、家族が言い出しにくい意見や要望を引き出す工夫が望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は基本的に考えていないが、異動などを行う際は入居者に紹介や説明をされ、馴染みの関係になるまで多くの介護資格をもつベテラン職員と共に行動するなど、チームケアを用いて入居者のダメージを防ぐ取り組みがなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長や管理者はスキルアップに繋がる研修情報を積極的に案内されている事もあり、介護資格を多数得ている職員が多い。またホームから研修に行ってもらう時は復命書を用意され、テキスト代などを支給されたり、勤務形態を考慮されている。また毎月発表の担当者を変えながら内部研修会を開き、全職員参加で学び合っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会に所属され、様々な疑問があれば気軽に相談できる関係を築かれている。また毎月様々な研修会を連絡協議会で行われ、職員も交代で参加され、他のホームを訪問し良いところを学び交流を深められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>当ホームに見学に来ていただくことなどで、入居予定の方の心情を考慮し、無理なく、また納得されてホームへ来ていただくように工夫されている。また本人の自宅へ訪問されたり家族から生活歴を尋ねることで、その方が早くホームに馴染まれるよう取り組まれている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>畑の作物の種付け、布巾などに刺繍を施す方法、ことわざの意味などを教えていただいている。節分や七草粥の作り方などの行事ごとを人生の先輩である入居者に楽しく指導していただくことで、共に支え合う関係を築かれている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の意向を知るべく、入居者の日々の会話や出来事を日誌や連絡帳に書かれている。連絡帳には赤と黒の色分けで内容が把握しやすい工夫をとられている。利用者台帳に入居者の生活歴が写真付きで記されており、これまで過ごされてきた暮らしぶりを知ることができる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は入居者本人と家族の意見を伺いながら作成されている。また入居者一人ひとりに担当職員があり、生活の中から見出した気づきを介護計画書に盛り込まれており、取り組みやすい計画書となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間は明確に記載されており、期日を意識した取り組みがなされている。またバイタルなどの状況に応じて見直しを検討されている。アセスメントは6ヶ月ごとに見直しをなされている。状態が変化した際はその都度記録され、介護計画の見直しに役立っている。</p>		

グループホーム おおくさ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者に好評の音楽療法や個々の能力に合わせた学習療法を用いている。また当ホームの1階はサロンのようにソファやイスを用意し、地域住民の方へ開放され、いつでも気軽に利用できるようにすることで、入居者が地域と切れない関係を支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院介助や協力医の往診が行われている。かかりつけ医は個別に対応がなされている。また健康管理シートを作られ、医師が伝えられたことを記録し、家族に正確な情報を伝えられている。また家族連絡ノートを使い、家族の訪問時に伝え漏れを防ぐように取り組まれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者本人と家族には重度化については話し合いをもたれている。また医師と相談の上、現時点では看取りはできない方針を家族にも伝え、退居先の案内を心がけられている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報などは事務所に保管されている。排泄チェック表を利用することで、個々の排泄のタイミングを把握し、さり気なく誘導されている。職員は優しい声かけや寄り添う介護で入居者のプライドへの配慮を充分に行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床などは個々の生活ペースに合わせている。昼寝などは本人が望む通り自由にとっていただいている。また一人でゆっくりされたい方には無理にリビングで過ごしてもらわず、居室でゆっくりしていただくなど、一人ひとりが本当に望んでいる暮らしの支援を心がけられている。		

グループホーム おおくさ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も食事を共にとおっており会話しながらの楽しい食事風景であった。調理も和食にこだわらず、様々な料理を提供することで入居者の興味を引き、大変喜ばれている。またとろみ食など、食べやすいように工夫されている。テーブル拭きや下ごしらえなども入居者ができる範囲で手伝われ、生き活きとしていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には2日に1度の入浴ではあるが、入居者が希望されれば毎日の入浴が可能である。浴室はバリアフリーで、クーラーが設置されており、脱衣しやすいように配慮されている。入浴されない時は清拭をおこない清潔保持の為の支援がなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	短歌を詠まれる方には季節がらにに応じて詠んでいたり、行事の際に化粧を楽しまれたりするなど、個々の力を引き出しながら支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気に応じて近くの公園や海岸線の散歩などで日常的に戸外に出られ外の景色を見て四季を感じられている。また毎月美容院に出かけたりドライブにでるなど、自由に外へ出かけることができる支援をなされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は鍵を掛けることがないため、入居者は自由に入居できる。また必要に応じて入り口にセンサーを利用することで、入居者が安全に生活できるよう支援されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スプリンクラーの設置、自然災害に対して保存食や水の確保、ランタンなどの備蓄を用意されている。浴室には風呂が2つあり、その内の1つは防火用水として常に水をためている。また廊下やリビングには避難経路や災害マニュアルが用意されている。		

グループホーム おおくさ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内に所属されている栄養士の方に献立をみていただき、栄養バランスなどを考えられ、入居者の健康を確保されている。個々の状態に応じてキザミ食などの支援がある。また食事量の記録、水分も1リットル以上の摂取を考えられており、脱水症状にならぬよう注意を払われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階には手製のウェルカムボードがあり、入りやすい空間を作られている。またソファやテーブルを用意し、サロンのようくつろげる雰囲気があり、居心地良く過ごせる。また階段の登り口にも入居者が行事でにこやかに過ごされている姿をアルバムにして置いており、何時でもイスに腰掛けながらゆっくり楽しめる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が筆筒や絵、家族の写真などを持ち込まれており、本人の部屋のように居心地良く暮らせるように支援がなされている。		